

高つぎによるベニバナトチノキの増殖

齋 藤 晶

はじめに

函館市内の道路（行啓通り）には，市民からの要望が多いベニバナトチノキの街路樹が植えられている（写真 - 1）。この園芸品種は枝いっぱいには開花するが，セイヨウトチノキとアカバナトチノキの人為的な交配によって作りだされた雑種であるため結実しないか結実しても不稔である。従って増殖はつぎ木（無性繁殖）によって行われる。しかし，小さな苗木につぎ木した場合，街路樹の公共規格（樹高 3m，目通り周囲 12 cm）に生長するまでに長期間（8～10 年）を要する。また，この木は国内での養成事例が極めて少なく，入手が困難な樹種であるため，増殖材料となるつぎ穂の収集や繁殖方法が容易でない。

このようなことから，街路樹としての規格に適合したトチノキの大きな台木を養成し，この枝条の各部分にベニバナトチノキを高つぎする方法を試みた。この結果，活着率もよく，つぎ木後 153 日間（5～9 月）の養成期間で規格に適合した街路樹となったので，その方法を紹介する。

台木とつぎ穂

台木は，道南地方に天然分布するトチノキの実生養成木（樹齢 8 年，植栽後 6 年経過，樹高 4.2m，目通り周囲 18 cm）を用いた。つぎ穂は，2 月中旬，道南支場構内に植栽しているベニバナトチノキ（つぎ木後 10 年，植栽後 8 年，樹高 1.8m，目通り周囲 12 cm）から採取して，低温貯蔵（1～2 月）し，昭和 63 年 4 月下旬につぎ木を行った。

つぎ木の方法

植栽木の中から幹が通直なものを台木として選び，地上 2.8m 以上に派生しているすべての枝条を鋸で途中から切断して樹形を整え，これらの部分に剥ぎつぎ法によって高つぎした。

つぎ穂には，頂芽を形成している当年生長枝（直径 1.2 cm 前後）を選び，長さ 10 cm に切りそろえた。この下部方向の片面（つぎ穂全長の 1/3）

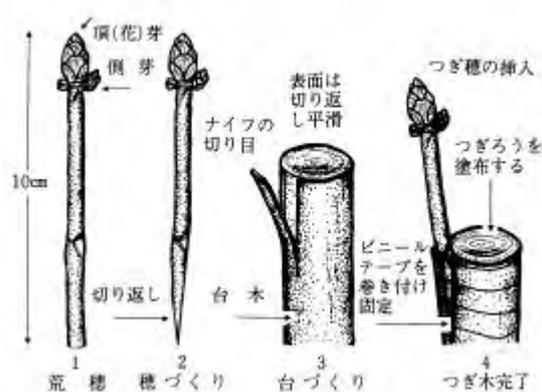


図 - 1 つぎ木の手順と方法(模式図)

を斜めに削り，裏側に若干の切り返しをつけ，穂づくりした。次に，あらかじめ整形しておいた台木樹皮に，つぎ穂と同じ幅で切り目を2ヵ所いれ，この部分の樹皮を若干剥ぎ反らし台づくりをした。この隙間につぎ穂をさしいれ，台木とつぎ穂の形成層を一致させ，台木の接合部の上からビニールテープを巻き付けてつぎ穂を固定した。さらに，つぎろう（白ろう，松ヤニ，ラードを5：3：2の重量比で混合）を塗布し，つぎ木作業を完了した（図 - T，写真 - 2）。

活 着 率

つぎ木後，20日を経過するとつぎ穂の頂芽（花芽）の部分の芽鱗が開いて，なかから新葉と小さな円鑑上のつぼみが出始めるので，活着を確認できる（写真 - 3）。

今回つぎ木した枝条の本数は11本で，このうち活着したものは9本，活着率は8割であった。活着しなかった原因は，主として固定したつぎ穂が部分的にゆるんだためと考えられる。

つぎ穂の生長経過

活着したつぎ穂は，6月上旬から生長を始め，8月中・下旬には頂芽（花芽）を形成して生長を停止する。開花は6月下旬から7月下旬にかけて起こり，つぎ穂の先端部から円錐状のつぼみが順次ほころんでくる（写真 - 4）。開花後は，側芽ものびてその先端に頂芽（花芽）を形成する。10月にはいってから落葉し休眠状態にはいる。つぎ木したペニバナトチノキの花芽はこのような生長サイクルをとっている（図 - 2）。

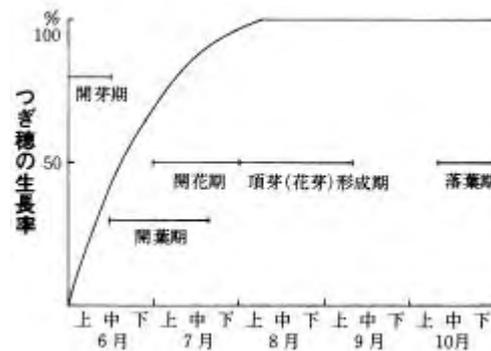


図 - 2 つぎ穂の生長率と生物暦

台木は大きいほうがよい

つぎ穂そのものの生長は，台木の太さによっても異なる。生長を開始した6月上旬から生長停止した8月下旬までの3ヵ月間におけるつぎ穂の上長生長及び直径生長は，表 - 1 に示したように，台木直径の大きいものほど旺盛であった。また，台木直径の大きいものではつぎ木当年の開花数，枝条の派生数及び頂芽数（花芽）なども多くなる傾向が顕著であった。

比較のために，苗畑においてもトチノキの実生1年生苗（苗高30cm，根元径1.2cm）を台木にペニバナトチノキをつぎ木してみた。活着したつぎ穂の平均生長量（20本平均）は，上長生長15.2cm，直径生長1.2cmで，生長は順調であった。しかし，このつぎ木苗では開花，枝の派生及び花芽形成はみられなかった。

以上のように，植栽後6年を経過した大きな台木と実生1年生苗の小さな台木とを比較すると，活着，生長，開花，枝の派生及び花芽形成とも大きな台木の方が良好であった。これは旺

盛な生長を示す台木の影響を受けて、つぎ穂の開花、生長、開葉などが促進されるためと考えられる。

表 -1 つぎ木当年のつぎ穂枝の生長

つぎ穂の番号	台木の直径	つぎ穂の生長		開花(芽)の有無			枝数
		上長	直径	開花	未開花	花芽	
	cm	cm	cm				本
1	1.0 ~ 2.0	20.3	2.62				2
2	1.0 ~ 2.0	21.5	2.73				2
3	2.1 ~ 3.0	24.3	2.73				2
4	3.1 ~ 4.0	26.6	3.01				2
5	4.1 ~ 5.0	31.6	3.29				2
6	4.1 ~ 5.0	32.8	3.37				3
7	5.1 ~ 6.0	42.3	3.56				3
8	6.1 ~ 7.0	52.4	3.96				4
9	6.1 ~ 7.0	53.2	4.24				5

生長量の測定 6月1日~8月31日92日間

上長生長： つぎ穂の年間生長量
 直径生長： つぎ穂基部の年間生長量
 花芽： 翌年開花する頂芽(花芽)形成をさす
 枝数： 1本のつぎ穂の生長過程から派生した枝の数

維持管理上の注意

台木では、すべての枝条を切断するため、幹や枝の部分から多くの不定芽が発生する。放置するとつぎ穂の生長を妨げたり、樹形が不整形になるため、常に芽かきを行う必要がある。またつぎ木当年には、基部の癒合が不完全なので、強風などによって生育途中の较弱なつぎ穂は折損することがある。このため生長が旺盛なつぎ穂には、簡単な副木を施して補強した方がよい。このほか枝葉が密生すると病虫害の誘発の原因ともなるので、夏期には軽度な樹冠内部の剪定、整枝を行ったほうがよいだろう。

む す び

ベニバナトチノキは、景観的に美しく、街の中の緑化樹木としても適していることから、需要が高まってきている。しかしつぎ木でしか増殖できないために、苗木の量産は容易でない。また従来行っていた小さな台木を用いたつぎ木苗の養成方法では、街路樹としての規格に適合するまでに長期間を要する。そのため価格も高く、なかなか人手できなくなっている。

ここで紹介した高つぎ法は、在来種のトチノキの大きな台木にベニバナトチノキをつぐだけの方法であるが、活着やその後の生長もよく、養成期間を大幅に短縮できることがわかった。しかもつぎ木した当年から花を楽しむことができる。



写真 -1 ベニバナトチノキの
街路樹（函館市内）



写真 -2 つぎ木基部



写真 -3 つぎ穂の活着
（5月中～下旬）



写真 -4 開花状況
（7月上～下旬）

（道南支場）